様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年５月２９日現在

研究種目： 若手研究（Ｂ）
研究期間： 2006～2008
課題番号：18720048
研究課題名（和文） 日本近代文学における１９世紀アメリカの廉価版小説の影響

研究課題名（英文）A Study on American dime novels influenced on Japanese modern Literature.

研究代表者
堀 啓子（Keiko Hori）
東海大学・文学部・准教授
研究者番号：60408052

研究成果の概要：

明治時代から大正期にかけての日本近代文学の名作には、１９世紀のアメリカで、廉価出版された小説から多大な影響を受けた作品が少なからずある。だがそうした作品の多くは、著作権意識が低かった時代から、その原著を明らかにせず、依拠した原作者名も不明となっている。本研究においては、そうした翻訳、あるいは翻案のうちのいくつかを具体的にとりあげ、それらに影響を与えたとされる原書を明らかにし、両者の比較を試みた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
18 年度	700,000	0	700,000
19 年度	700,000	0	700,000
20 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総 計	2100,000	210,000	2310,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：近現代文学 比較文学

１．研究開始当初の背景

従来、無名の廉価版小説を対象としたこの分野の研究は、日本の近代名作との関連を重視されつつも、研究がほとんどなされてこなかった。

だが、dime novels は、その廉価ゆえに同時代の日本にも多く輸入され、多くの文士が落掌している。そして、無名作者の無名作品でありながら、極めて魅力的なストーリーテリングが、幾人もの文士の心を捉え、彼らにその〈翻案〉を想起させた。古典名著の〈翻訳〉ではなく、名もない作品をもとにした〈翻案〉である。

外国の、しかも廉価で大量出版された小説の調査が事実上、不可能と看做されてきたためである。文学青史には載らな

かったこの分野についての研究は、事実上、その資料確認が難しかったという問題もあった。

そこで新たに外国での実地調査を念頭に、新規分野の開拓を試みるべく、研究を申請させて頂いた。

２．研究の目的

本研究の目的は、１９世紀末のアメリカの廉価版小説が、日本の近代文学にあたえた構想上の影響を調査することである。具体的には以下のとおりである。

（１）明治、大正時代に、こうしたアメリカの廉価小説をもとにし、＜翻案＞というかたちで発表された個々の作品をリスト化する。

（２）そうした作品が、どのような意図で、どの段階まで原作を模しているか系統的に整理する。

（３）その調査結果を踏まえ、同時代の日本文学が、文士たちの手でどのように外国文学から換骨奪胎され、独自の近代小説としてのスタイルを確立していったかを、明らかにする。
以上の三段階の研究作業を進めた。

３．研究の方法

（１）現地調査

本計画の遂行に、最も重要となったのが、できるだけ多くのdime novels を確認することであった。しかしdime novelsは、日本には全国の図書館に僅か数冊しか現存せず、それらの大要は概ね把握している。

したがって、実質上の調査は外国での確認作業から始まった。dime novels を１００冊以上所蔵するのは、世界でも、アメリカ及びイギリスにおける大学附属や国立などの図書館、５箇所のみである。

よって、奉職する大学の長期休暇を利用してこれらの図書館をまわり、確認作業を行った。なお、文士の書簡や手記など国内各地で入手可能な、補足となる資料も含め、収集した資料を用いる具体的な比較対照作業と分析は、国内で行った。

（２）海外の学会で研究発表

開催場所および時期などの条件がなるべく、上記の現地調査に合わせられることを前提とし、そうした学会を優先してpaperを応募した。

dime novels は、欧米でもまだ新規の分野であるため、口頭で伝えられる情報がきわめて多い。これまでの幾度かの国際学会での発表により、現地研究者との交流の機会が増え、聴衆を通じてもより貴重な情報交換を行いえた。また、紹介を受けた地元の収集家や市井の研究家から、rare booksの複写などをご提供戴いている。

４．研究成果

主として、廉価版小説家の中でも格別の人気を博したMary Corelli およびBertha M. Clayの作品を調査した。ともにイギリス人であったが、彼女らの作品は、アメリカで廉価出版されて、本国以上にアメリカでよく売れていたためである。

（１）Corelliの*Vendetta!* に影響を受け

た黒岩涙香の作品「白髪鬼」は、さらにその後に江戸川乱歩に影響を与えて同名の小説「白髪鬼」を書かせているため、この三作品の比較検証は詳細に行った。その段階で、英米でセンセーショナルノベルとして廉価版としての扱いの域を出なかった原作が、明治期に黒岩涙香の手になって一つの翻訳の名作となり、さらに時代が下った後は昭和初期独特の風潮を受けて換骨奪胎された翻案として乱歩独特の名翻案「白髪鬼」として再生産されたことは、翻訳や翻案の手法が従来の作家個人の問題のみならず、読者受容を含めた時代の影響をいかに受けたものであったかという背景を明らかにしている。この詳細は、拙論にまとめており、一部概要は口頭発表も行っている。

（２）Bertha M. Clay については、その廉価版小説と明治の三人の文士の作品を対照した。その三人は、新聞小説作家の黒岩涙香、菊池幽芳および、英書の翻訳を手がけた末松謙澄である。

まず、発表当時から不明であった、黒岩涙香の翻訳作品「嬢一代」の原作を、Bertha M. Clayの *Irene's Vow* であると特定しえた。涙香は自ら創刊した『萬朝報』において主筆を務め、その翻訳作品で絶大な人気を博しているが、なかでもこの「嬢一代」は同紙創刊の初期に掲載され、話題となった中編小説である。実は涙香は、早くよりこのBertha M. Clayに注目し、「嬢一代」や「古王宮」をはじめ多くの作品を翻訳しているが、原作を特定した「嬢一代」は、日本人作家の中でもBertha M. Clayを扱った最初期の作品のひとつであり、この原作特定により、無名の原作を換骨奪胎していた手法や、登場人物名にみられる発音を一致させる斧鑿の痕が明らかになった。

次いで、末松謙澄、菊池幽芳がそれぞれ翻訳、翻案として手がけた、同じくBertha M. Clayの原作 *Dora Thorne* をもとに、それぞれの冒頭および結末に重点をおき、考察した。実は幽芳の「乳姉妹」は、謙澄の「谷間の姫百合」と同じ*Dora Thorne*を原作としながらも、一見その共通性を感じさせえぬ巧みな改変がなされた作品である。考察の結果、「幽芳はなぜ、謙澄と同一原作を、十五年後に再び手がけたのか」という従来の研究史上の疑問に対して、幽芳が、作品を二分することによって、翻訳とは全く異なり、従来の翻案とも一線を画する、原作の一部を焦点化し、一作品へと膨らませていくという新たな手法を確立したという結論を導き出すことが出来た

（３）ここ数年、欧米の学会でもこの研究はご評価戴いており、The Society for the History of Authorship, Reading & Publishing 2007 の学会発表（於University of Minnesota)での研究発表は優秀発表として'deserve special mention for their excellence'として学会誌（*SHARP NEWS Autumn 2007*）でご報告戴いた。またこれを受けてcommittee より 2008 年 9 月の同Copenhagen 学会への招請を受け、同年はUniversity of Southern Denmark にて研究発表を行った。

SHARP(Society for the History of Authorship, Reading and Publishing) Copenhagen 2008 において研究発表を行っている。具体的にはその文体の問題に焦点を当て、どのような文脈がなぜBertha M. Clay 作品に対応させられ、

あるいは異同が生じたのかを考察した。その際、黒岩涙香と同時期に活躍していた小栗風葉、森田思軒にも言及し、日本で最初に Bertha M. Clay を翻訳した末松謙澄訳から数十年にどのような異同があったのかを検証した。

この問題については、特に近年では『日韓近代小説の比較研究』(慎根縡 明治書院 2006 年)や『美女とは何か』(「張競 角川学芸出版 2007 年」など、他の分野、或いはアジア各国の研究者諸氏の文献でも言及して戴いている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　７件）

堀　啓子　「二つの『白髪鬼』」『東海大学文学部紀要』９０巻　査読有　pp８８～１００　2009 年　3 月

堀　啓子「黒岩涙香――ジャーナリスト、小説家、そして『萬朝報』」『東海大学文学部紀要』８９巻　査読無　pp１２５～１３２　2008 年　9 月

堀　啓子「日本近代の翻訳と翻案における廉価小説」『ＥＲＧＯ』３９巻　慶應義塾大学弁論部エルゴー会　査読無　ｐｐ２０～２４

堀　啓子「明治期の翻訳・翻案における米国廉価版小説の影響」『出版研究』第３８号　査読有　pp　２１～３８　出版学会　2008 年 3 月

堀　啓子「翻案としての戦略～菊池幽芳の「乳姉妹」をめぐって」『東海大学文学部紀要』８６巻　査読有　pp５７～６８　2007 年 3 月

堀　啓子「黒岩涙香の翻訳小説～Bertha M.Clay 原作の『古王宮』をめぐって」『関場武先生退任記念論文集（藝文研究）』慶應義塾大学藝文学会pp３４～５１　2006 年　12 月

堀　啓子「黒岩涙香の翻訳術」『ＥＲＧＯ』３６巻　慶應義塾大学弁論部エルゴー会　査読無　ｐｐ５６～６１

〔学会発表〕（計　５件）

堀　啓子「二つの『白髪鬼』」日本出版学会秋季研究発表会 2008 年　11 月　　中京大学

Keiko Hori　“How Japanese Best-Seller Novels Were Made from American Cheap Edition Novels?”
SHARP Copenhagen 2008　The Society for the History of Authorship, Reading and Publishing　2008 年　9 月　University of southern Denmark

堀　啓子「「読み物」としての新聞の魅力を探る」
東海大学文学部叢書プロジェクト　シンポジウム　2008 年　3 月　日本記者クラブ

堀　啓子「明治の小説におけるアメリカ廉価小説の影響」日本出版学会　秋季研究発表会 2007 年　11 月 大阪市立大学

Keiko Hori　“Bertha M.Clay and Japanese Literature”
SHARP Minnesota 2007　The Society for the History of Authorship, Reading and Publishing　2007 年　7 月 University of Minnesota

〔その他〕

堀　啓子「没後 60 年の夏　太宰治『津軽』への旅」『毎日新聞』2008 年　7 月 7 日

６．研究組織
(1)研究代表者
堀　啓子（Keiko Hori）
東海大学・文学部・准教授
研究者番号：60408052

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：